

ロッテグループの経営権問題について

私どもロッテグループの経営権の問題をめぐり、世間をお騒がせしていることに心を痛めております。今回の一件で、ご心配ご迷惑をおかけしているお客様、お取引先様、そして、従業員とそ
のご家族の皆様には大変申し訳なく存じます。

私は今現在も健康でおりますが、いろいろと報道されている中で、これまで私自身の考えを述べる機会をとることができませんでした。併せてお詫びいたします。このたび、ロッテグループの創業者として、今回の一件を解決する決意を述べるため、周囲の者の協力を得ながらこの手記をしたためました。

私は 1922 年に韓国の蔚山で生まれ育ち、その後日本に渡りました。当時、私はドイツの文豪ゲーテの名作「若きウェルテルの悩み」を好んで読んでいました。その後に創業したロッテという社名も同作のヒロイン「シャルロッテ」に因んでつけたものです。

日本に来てからは、新聞配達などで生計を立てながら勉学に努めたのち、初めて就いた仕事は、金属加工などに使う切削油の製造でした。当時知り合った好々爺に誘われ、「資金は自分が出すから」ということで始めたものです。ところが、事業を始めてすぐに工場が空襲で焼けてしまいました。そのお爺さんは決して私を責めませんでした。私は自分を信用して資金を出してくれたその方に対して本当に申し訳なく、何とかして返済しなければとの思いで、今度はひまし油を仕入れてポマードの製造販売を手がけました。1 年ほどで資金が出来てお爺さんに返済することができました。その際のお爺さんの喜びようは今でも鮮明に覚えています。このときに、人に絶対に迷惑をかけてはいけない、身の丈にあった堅実な経営をするということを肝に銘じました。

1947 年にチューインガムの製造を始め、翌 48 年にロッテを設立したのが今日のロッテホールディングスの起源です。当時、進駐軍の米兵が噛んでいたチューインガムを見て初めてガムというものを知り、実際に噛んでみるとおいしいし、くせになる。当時は物資も乏しく苦勞の多い時代でしたから、そんな中でも大人にも子供にもガムを楽しんでもらいたいという思いでガムの製造販売を始めました。

ただ、当時のガムは作るのも簡単でさほど設備も必要なかったもので、競争が非常に激しかった。だから、創業当時は、来る日も来る日も小売店詣でに勤しみ、自ら自転車で足しげくお店を回りました。次第に、商店の方々からも信用されて、競合がひしめく中でもロッテのガムを好んで売っていただける。そうして小売店などお取引先を大切にしなければならぬと身をもって学んだのです。

やがて、仲間も増えて新しい商品を開発できるようになり、ガムだけでなく、チョコレートやアイスクリームといった今でも皆様に愛用いただいているお菓子を作れるようになりました。

私は、そうして事業が発展する過程で、重要だと考えずっと守ってきたことは、好々爺から学んだ人に迷惑をかけないこと、商店などお取引先の皆様との信頼関係を大切にすること、そして、社員である仲間たちを大切にすること。これを経営理念に据えてきました。

こうした創業時からの原体験に基づく経営理念が、その後のロッテの発展の礎になったと自負しており、私の密かな誇りでもあります。だからこそ、こうした経営理念に反する今回の一連の騒動で、さまざまな方々にご心配・ご迷惑をおかけしていることは慙愧に耐えません。創業者として、一刻も早く事態を収束させる決意でおります。そのためには今回の騒動の経緯についてご説明しなければならないと考えています。

皆様には、断片的な情報や今回の騒動の発端を作った者たちの言動で、一連の騒動の真相が見えにくくなっていることでしょう。私自身も自ら創ったグループの内部の恥を晒すことは避けたかったのが偽らざる心境です。しかしながら、事ここに至れば、こうして真相をお伝えし、一日でも早くこの事態を収束させることが私自身の責任であると考え至りました。

今回の騒動が起きるまで、日本のロッテグループは長男の宏之が、韓国のロッテグループは次男の昭夫がそれぞれ管轄し、私自身は総括会長として両国のロッテグループを統括してきました。

事業が両国を跨いでいることから、私は隔月で両国を行き来し、各事業の決裁を行ってきましたが、90歳を超え、さすがに体力もいささか衰え、ソウルの執務室に滞在して決裁を行うようになりました。

そうした中で、副会長である宏之が独断で事業を進め、損失を出したかのような報告が現経営陣の一部から寄せられました。私はすぐに宏之に報告を求めましたが、当時は、宏之も取引先との打ち合わせが立て込んでいたことで会話をする機会がなかなか取れず、昨年12月17日にととう私は宏之に引導を渡し、その後、一部の現任役員たちに問われた際に、宏之を解任すると回答しました。今回、皆様をお騒がせしているのは、こうした一部の現任役員による報告に基づく判断が一因でありました。

しかし、実は、この報告が偽りであり宏之を放擲するための策謀だったことがわかり、現在のロッテホールディングスの経営陣の中枢にいる人物らがそれらを主導したことが判明したのです。人に迷惑をかけない、取引先や社員を大切にするというロッテグループの発展を支えた理念に背く行為です。そして、お客様、お取引先、社員やそのご家族のことを省みない、身勝手極まりない行動です。私は今回の騒動の発端となったそうした一部の現任役員に身を引くよう書面などで求めましたが、彼らは開き直るばかりでした。

だからこそ私は、今年の7月27日、自らロッテホールディングス本社に赴いて、この一連の騒動に決着をつけ、皆様にこれ以上の迷惑をかけるのを止めようと試みました。しかしながら、驚

くべきことに、私が本社に到着すると現任役員たちは社長室に閉じ籠って全く出てこない。話し合いのテーブルにも着こうとしない。会社の実印などもロッカーに閉じ込め、鍵を持ち去ってしまうという行動に出ました。

そこで私は、本社にいた社員約 300 名を一堂に集め、現任役員の職務を解き、追って正式な手続きで解任すること、さらに、新たに宏之を中心とする体制とすることを社員たちの前で言い渡しました。そして社を後にしたのです。

総括会長である私を徹底して避けた現任役員たちは、翌日には本社のシャッターを硬く閉ざして、臨時で開いた取締役会で私から代表権を取り上げ、名誉会長に棚上げすると決定しました。なお、この際、私に対して取締役会の招集手続きはとられていません。こうして現任役員らは、宏之のみならず総括会長であった私の排除にも成功したわけです。これが一連の騒動の真相です。

これまで大切にしてきた「人に迷惑をかけない」「お取引先の信頼に応える」「仲間を大切にする」という考えを真っ向から否定するような現任役員たちの体制が、お客様、お取引先様、従業員とご家族の皆様にとって良い結果をもたらすわけではなく、ロッテグループにとっても不幸なことではありません。今後、持てる手段を使って、必ずやロッテグループをあるべき姿に正すことを心に誓い、その決意を新たにしております。今申し上げられるのはここまでです。

最後になりますが、社員とご家族の皆様には本当にご心配をおかけしており、誠に申し訳なく思います。社員の皆さんは、こうした騒動に関わる必要はありません。お客様やお取引先のために社業に努めていただきたい。現在、私は、今回の一件を一刻も早く収めるため、宏之とともに考えを巡らせており、必ずやそれを成し遂げます。そして「そのとき」が来たら、是非、創業の理念に立ち返り、ご協力していただきたい。皆様のご健康とご多幸を心より祈念しております。

2015年11月9日

重光武雄